夕刊 磐城新聞
六月十一日發行
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八〇五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北の風晴夕立模様
明日は北東の風晴後薄曇

娯樂本位か指導性か
……讀者文化への誠實といふ事……
春木生

（三）

娯樂本位か指導性か？これは輕々しく論斷できる問題ではなく、指導性などと云つたところで、現在のところどうなるものでもないであらう

たゞ地方の新聞雜誌は、自社が有つ讀者の文化水準が、地理的ハンデキャップの爲に何年或は何十年が立後れてゐる事、及び讀者文化への誠實といふ事を念頭においたならば、きうきう忽せな眞似が出來ない譯だ

讀者への道としては、先づ最も信用の於ける通信社を選ぶのが第一の捷徑ともいふべく、次には其の作者の思想なり人間性なりが或程度まで極め、同時に自社が有つ地理的環境やら讀者やらに其の作品の問題性なり刺戟性なりを照し合せて然るのち決定すべきなのである。云ひ換へると新聞雜誌が有つての讀者だとしても、讀者あつてこそ新聞雜誌が成り立つて行くのと同じ意味で、讀物があつての讀者ではなく、讀者あつてこその讀物なのであるから、編輯者といふ選ばれた地位を純粹に認識して、この程度の忠實さは讀者に對して當然もたなければならないであらう

そして、面白いとか爲になると云ふ美名に隱されてある、僞瞞や惡宣傳に牙をむくべきなのである

○

新聞紙（或は雜誌）の本道とも云ふべき進み方は、たゞに敏速にニュースを報道するにとゞまらない。直接間接、讀者文化、地方文化へのたゞしい寄與若しくは指導性がなければそれは期されない

意識をこゝまで高める事に依つて、日ごろ讀者一般に與へるところの讀物で、通俗小說、マゲモノ、講談、ユーモア、探偵小說、落語——その他何に限らず、決して無關心なおざなりな一個人の好き嫌ひ的選定の仕方などでは、怒らしくて出來なくなるのではあるまいか

ニュースの報道だけでは足りない

それと兩々相合せて、良き讀物を紙面に飾る事に依つて讀者への文化水準を少しづゝでも高めるべきなのである。さう云ふ人間と一ての善への方向を、我れ人ともに欲しいのである（完）

田植歌
森たかみち

黒姫山の
雪消ねりや
空も啼いてく
時鳥

垣根に咲いた
卯の花に
一人きりの
庵かな

今年も伸びた
庭の草
蚊帳から見てりや
けしの花

あゝ勿体なや
勿体なや
寝ながらに聞く
田植歌

6月12日
△蘇我入鹿誅せらる（皇極天皇四）△北條氏康、初陣に上杉勢を破る（享祿三）

△方廣寺大佛殿の起工式（慶長一五）△帝大に農科を置く（明治二三）

平市を祝ぐ（上）
駒嶺抱夢

○榮の霞たなびき平市は誕生しけり水無月の朝

○躍進の途にしあれば平町いま市となりし榮を祝ぐ

○高らかに讃へよ今ぞ平市民その建設の積るいさをし

○公園の櫻の若葉そよぎつゝ喜びあへる初夏の風

蕪風漫筆……新綠舊知を尋ねて
小名濱町 一社友

四

△是れより先き一同は決行する日の豫定がつくと一書を飛ばし氏に當てゝ其來たるべき日を通知して置いたので、其通知を手にせし時より、氏は既に師弟關係を、水の如き時の擧措としては、社會教育上の美談で名あると感激して居つた矢先き、一臺の大バスに二十近くの師達ちが、思ひ〱に酒肴を整へた上に、記念品の大金火鉢を恭々しく擧げて、門戸を叩かれたので夢の如く幻の如く自覺を失ふまでに狂喜したい

大廣間は忽ち一大宴會場と化し先生〱の辭は氏を取り圍むで昔の童の通り手を握るやら膝に上るやら、恰も少年時代の生徒と先生の如き情景は、譬ふべき何物もない、獻酬が半ばになると呑めや唄への滿悅に、歡談洩れて入遠野銀座市街は人山を築くの珍事を現出すると云ふ情況で、入遠野村民の羨望の的となり、參加をさへ申込み來たる物景を示した

△午前十時に尋ね午後の四時を告くるも聊かも歡樂が衰へない、所が一日は此れを以て足れりとはせず、更に進むで、先生を連れ立つて各自の家庭に招き歡を盡すべしとの考案の下に、先生の出發を促して已まぬのであつた

講談 妖刀流轉（えうとうるてん）
（111） 邑井貞吉演 佐々木今朝吉畫

惡黨同志（一）

遠藤嘉平次早速に彼の一刀を、御城下の研師六郎兵衛の許へ研ぎに遣はし、
嘉「この刀は容易ならぬ由緒の品なるによつて、必ず職人等の手にかけず、其方自身念に念を入れて研ぎ上げますするよう」
と、特に注文をした、六郎兵衛も委細心得て仕事にかゝる。

さて嘉平次が十内の様子を見ると、正直一途陰日方なく働き、誠に人物がいゝから嘉平次も男衆之進の推薦ではあり、この男を我家の仲間に召使ふ事にして、扱ひこゝ今までの文助を廢め軍藏の許へ廻したのでございます。

十内は衆之進に生命を助けられた上、今またその娘おちか殿の婿遠藤嘉平次に目をかけて使はれる事になつたから、二重の恩義を深く感じ、此御主人の爲めなら、火の中へでも飛込まうと決心し、一生懸命になつて働きます。

こういふ奉公人を置いた家は仕合せ、向疵の熊吉といふ素性を押隱し、猫を被つてゐる文助とは譯が違ひます。

その文助は以前の惡黨仲間廣瀨軍藏の仲間になつたのだから、此方は滿足に納まる筈はない。

美濃へ來てから運が向いて、トン〱拍子にいゝ目の出た廣瀨軍藏、此處で辛抱をして眞面目になつたら勘當された實父の許へ、歸參の詫も叶ふ事になれたらうが、そうは問屋で卸さないといふのは、何しろ惡黨同志の文助が附いてゐて、良からぬ事をけしかけるのだから叶ひません。

夜分などは主從が胡坐をかいて差向ひになり人目のないのを幸ひに手前俺で酒盛をする始末だ

何うも仲間が御主人と對座で盃のやり取などは亂暴千萬の無禮だが、軍藏には文助を咎める力がない、惡い間々云へば二言目には何を言やアがる昔を忘れたかね、散々俺の家の食客をしてゐやアがつて、大それた惡事を働いた仲ぢやアねえか、一言俺が口を辷らせた日にやア、今の身分を棒に振るどころか笠の臺も飛んぢまだらうと、脅される弱點を握られてゐる、これでは頭の上る筈もなく、文吉は仕度い三昧、軍藏も段々尻が暖まつて來るに連れ次第々々に以前の放蕩無賴な一箇が募つて來るといふのも是非のない所

青山家へ奉公してから早くも四月ばかり經つた

丁度夏の始めで御殿から退つて來た軍藏が、行水を濟ませてから緣側の庭を見ながら一杯始める、文助は傍へ來て盃のやり取り、何方も飲ける口だがとりわけて軍藏は強い方、而も酒を飲むと一層大膽不敵になつて氣が荒くならうといふ厄介な酒だ

軍『サア文助、モッと酌げ……』

文『軍さん、そろ〱醉つて來たね』

軍『これ、主人を摑まへて軍さんとは何だ、瘦せても枯れても三萬五千石青山大藏大輔様御近習役の廣瀨軍藏だぞ、仲間風情の癖に無禮の口を利くな』

文『ホーラ始まつた、何もそんなに尖らなくたつて良いぢやアねか、誰も傍に見てゐる譯ぢやアなし、お前と俺の仲だ、改まるには當らねえ』

軍『お前と俺の仲だとは益々怪しからん事をいふ』

文『コウ〱とぼけるのもいゝ加減にしなえ、いくら恐い面アして脅したつて恐がるような熊吉ォッ文助ぢゃア無えんだ、無駄だから止しな〱、それよりはなオイ軍さん、お前乃公に奢つても好い事があるぜ』

初夏の氣分と
行屆いたルーム
お出を
お待ち致します。
珈琲と
御食事
グリル バッカス 電七〇二
女店員募集
全部給料制度
品位良き方を望む
經驗無き方も良し

夜間診療
胃腸 性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、矯齒架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平市出町（松月堂向ヒ）（電話五〇九番）
（見習看護婦募集）

旅館 [illegible]
東京上野驛前
下谷郵便局横通角
電話下谷(83)六七七番
私は平町出身ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

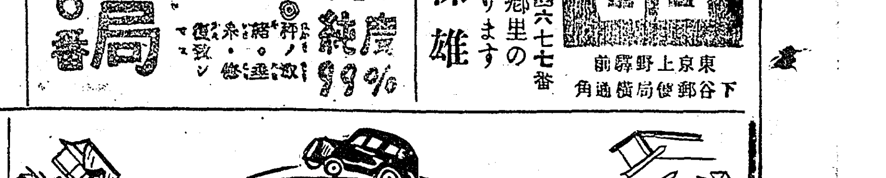
吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
開內藥局 電話四〇番

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市出町（元合津醫院跡） 電話五五九番

鮫川砂利採取及販賣
砂利……川部村沼部
砂……山田村法田
玉石……植田鮫川橋下
砂利採取場
貨物自動車運搬業、有價證券、株式債券賣買及仲介、商品依托販賣、千代田生命、千代田火災保險代理店
常磐線植田町
植田物產株式會社
取締役 山崎登 電話三一番
各種貨物一般及重量機械類運搬取扱
石城郡錦村中田
植田物產錦出張所 電話（植田）一三五番

內職外科一般 外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院 電話三〇九

耳鼻科 咽喉科 專門
（入院隨意 病室完備）
大和田醫院
平市南町一六番地 電一七〇番



…貸金低廉普通料金の四割引…
㊍平和タクシー
◎お玄關から
お玄關への……
◎豆タクを是非御利用下さい
豆タク部
植田三台町
電話六十四番
貸切自動車 高級流線型
時代の要求!!!
時代の寵兒!!!
皆様の足
迅速 親切 叮嚀

難波醫院
內科 小兒科
入院應需
自炊の便あり
平市大町 電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波睦

御贈答品には
ニンペン
かつをぶし
宍戸屋商店
平市四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
病室完備
上田醫院
平南町（電話一二九）

土地建物 電話金融 補理分讓
福島縣平市揚槌小路壹番地
乾產業合資會社
平 電五五五番

立候補屆出と同時に 有權者名簿を渡す

昨秋現在 市役所で目下調製準備に大童 供託金制の適用無し

事實の問題となつた第回の平市會議員選擧に關選擧會場、投票の日時及び選擧すべき議員數投票日七月十日の二十日(選法では選擧前七日前)今月十九日を以て告示、候補者たらんとするは投票日の七日前たる月三日迄に選擧長へ屆出要する事になつてゐる候補者の大部分は告示後續うて屆出づべき形勢みた市役所では屆出で時に各候補者に對し舊、平窪村を一括した選名簿各五部位宛を交附答で目下大童で印刷の中であるが選擧人名簿年九月十五日の現在にし調製するもので今回の直に新規調査の時間が爲便宜昨年九月十五日のものに據らねばなら も其後の死亡、失格、轉出入等に就ても之れが加除更正の暇がないので實際とは多少異つたものが出來るのも已むない事情と見られて居る。尙ほ二百圓の供託金は勅令を以て指定されたる市若は區會選擧に限り府縣制の規定を準用さるるもので内務大臣の告示に基く平市には關係無く所謂保證金問題に就ては徒手空拳で立候補出來るわけである

縣下の大會を前に 磐中、平商兩軍遠征

相前後して水戸へ

平商野球部では縣下大會に備へ十三日水戸へ遠征、炎工及水戸中と對戰、磐中でも二十日同樣水戸へ遠征するの十五日から早大菊地三壘手を招いでコーチを受ける、兩軍の陣容左の如し

	投	捕	一	二	三	遊	左	中	右
平商	橋本	渡邊	矢吹	武藤	大塚	千葉	吉田	森下	木田
磐中	鈴木	水野	矢野	蛭田	石橋	矢代	遠藤	吉田	鵜沼

常磐線に急行增發

愈來月一日から實施

線上野＝青森間に愈よ一日より急行上下各一發されることに決定、ダイヤは左の如くであ同線は從來各急行とも な乘客過多から混雜しを開いてゐたものでこの增發はこれを緩和すに役立つべく期待され

上り 青森發午後十時十分、平午前七時二十二分着、同二十八分發、上野同十時十五分着

下り 上野發午後六時五十分發、平同十時二分着同八分發、青森午前七時一十四分着

米價保合か

けふ俵米共販

城販聯の俵米定期共販は一日行はれたが出荷左の如く合計千二百二十六俵相場は保合ひを豫想されてゐる、尙前回の相場は最高十二圓四十錢、最低十二圓二十錢

平一號三 同二號一四七 (双葉米) 大野一號一二二 三 同二號一二三 同三號一二二 夏井七七 高久一號一一〇 同二號一一〇 草野五六 飯野六九 神谷四六 鹿島一七

渡邊六〇 植田六七 勿來九六

小麥菜種販賣統制協議會

十八日團体事務所で

石城郡下の小麥菜種販賣統制協議會は既報の如く來る十八日午前九時から平團体事務所で開き縣並に全販聯縣販購利聯、縣信聯から係官出張、縣下産業組合、農會技術員等が參集左記諸項を協議する

小麥增産奬勵に就いて(小麥奬勵官) 小麥菜種の檢査(穀物檢査官) 販賣統制計劃指示 販購利聯提出事項說明 一般的質疑應答及協議

目前の危機に備へ 鎌田町振興會生る

全住民が一丸となり 近く初總會で對策協議

新鎌田橋の完成に伴ふ南方部の衰微其他市内鎌田町には居住民の死活問題と迄云はれてゐる重大な案件が目前に控へてゐるので同町ではこれら諸問題の對策並に今後の發展を圖るため今回全住民を以て『鎌田町振興會』を結成した

今後の事業としては

一、總ての選擧肅正並に時間の勵行

二、國道改良に伴ふ對策の具体的攻究及び實行

三、當區の振興に關する諸問題の調査及び實施案の決定

四、先進振興地の視察並に識見者の意見聽取

五、其の他區會又に振興會員よりの建議提案に就きて審議す

の五項目に分れて居り一兩日中同町熊野神社境内で第一回總會を開き役員の選擧其他今後の方針などを協議する筈であるが會長には區長岡田千藏氏を推し以下の役員

議會長(副區長) 會計二名 幹事六名 委員若干名は互選、指名で決定する事になつてゐるが前記の如く平＝神谷間直通路開設による新鎌田橋の竣功を見れば現鎌田橋を經て對岸の神谷村地内を迂回する國道は當然廢道或は市道となり從つて現鎌田橋の存廢にも影響する結果となるは必然でこれを撤廢するやうな事になればそれこそ足を奪はれたも同然の同町南部商店街等は著しい打擊を蒙る事になる、この難局打開のため同地居住民が一丸となつて結成された今回の振興會はかうした意味から少らず今後の活躍を期待されてゐる

。。。。。

小學公開教授

市内第一、第二、第三の各小學校では十六日何れも公開教授を行ふが當日の教授訓導左の如く決定

△第一—坂本ユキヲ 大伴操 齊藤榮 △第二—仲村操 甘南備タマ 大和田キヨ △第三—吉田功 菱沼儀 石田伸六郎

東鐵課長視察

東鐵吉川運輸部長、同部小泉貨物課長外二名は水戸運輸、保線兩事務所長の案内で九、十の兩日泉、小名濱、江名、平、綴、湯本の初巡視を行ひ自動車で御齋所峠を越えて水郡線石川驛へ向つ

區長會

平市區長會を十五日午前十時から市會議事堂に開き初市會議員選擧を前にこれが肅正運動に關し協議

貨物研究會 平—勿

來、赤井—小川鄕間の貨物研究會を今十一日午前十一時から平驛樓上に開き水戸運輸事務所から丹治書記外一名臨席、サーヴイス及貨物の認識强化に關し協議

齊藤堀川兩警部補赴任

平署から榮轉した齊藤(郡山)堀川(若松)兩警部補は今十一日午前十一時十分發磐越線で多數の見送りを受け赴任した

唄ふ藤山一郎

十三日のプロ決る

平青年團の資金造成『藤山一郎と映畫の夕』は十三日夜七時から聚樂館に開くがプロ左の如く決定

△獨唱(伴奏アコーディオン自奏)僕の靑春、丘を越えて、酒は淚か溜息か、影を慕ひて、男の純情、靑い背廣で、東京ラプソデー

△映畫トーキー君ケ代の由來、母の心、チャツプリンの兵隊、其他

海外に石城を懷しむ

在米佐々木修一氏の昔語り讀後感

○△生

G

國府田榮君の細君の祖母さんである森元の小母さんと云ふ人は歌がるたが大變好きだつた。そして新暦の正月から舊暦の正月にかけて、幾回となくかるたの宿をする事を定例として居た。宿をすると云ふので無くても此方から押しかけて行くと晝でも夕方でも時を定めずかるた取りをやらして呉れる人だつた

其の定連と云ふのが私と加藤木と國部とで準定連と云ふのが現に内務省の技師をやつてゐる工學士金古久治君、南洋でゴム會社の支配かなんかをやつてゐると云ふ法學士栗原一郎君、高商出の四倉七十郎君、外語露語科出の木村格君などであつた。此頃のかるた取りと云ふと頗る亂暴なものでかるたを奪ひ合つたり他人の場所を故意に掻き廻したり、相手の手の甲を引つかいたり、血を出さしたりしたもので、いざかるたが酣となつたとなると丁度動物園の晝どきの樣に娘たちはキャッキャッと猿の樣な聲を出す。男子達は山犬の吠え立てる樣な聞を張り上げたものだつた

下手な癖に無茶苦茶に彌次りまはす栗原大王、其は野球で一壘手をやつてゐた金子が六尺豐かな体軀を以て、八疊の間を斜に『おつた』と叫び乍ら辷り込みをやるなどは先づ名物として知られてゐた

0

『同縣人ではないが同郷のものだ。幼な馴染だ。ほらあすこに、あの大きい海よ、太平洋のことよ』

國府田氏からオリンピックに誘はれたのを斥けて夢寐に忘れぬ故國泉村下川邊の海に思ひを馳せた著者であつた。海に就て次の如く書いて居る

0

それから私はフイッシハーボアから海岸に出て私の舊友太平洋に會見に行つた。大体に於て南加の海は靜かなそうだが、此所はまた防波堤が完全に出來て居るので特別に靜かだつた。波も私の生國の海の樣な大きいのは來ない、小さなのが一折か二折思ひ出した樣に打つばかりだ。でもやつぱり懷しい。私は默然と砂の上に坐つて海を眺めた。

0

著者の目がしらは熱くなつた。そこには故國の海岸の『舞濱』が無かつた。エトランゼの郷愁と云ふものかどうか。海の叙述は尙ほ續いてゐる

春繭の出廻り最盛は 來る廿日頃か

四倉愈よあす開場

繭の高い年は農家は大助かりだ、各方面からドッ！とあがる春繭高の歡聲に地方養蠶家の胸は躍つて何れも愈よあす十二日蓋あけされる四倉市場に期待をかけてゐる

郡下の春蠶は例年早い小川方部がはや今月の五、六日頃上簇に今月末頃の三阪、澤渡の山間方部は別として平坦地の上簇盛りは明十二日頃であらうと云はれて居り、その收繭想數量は約八萬三千貫で當局が奬勵の自桑自給方針が徹底した關係から增收を豫想にも拘らず昨年より約五百貫の減量を示してゐる

然して四倉市場の出廻り最盛期は大体今月の十八日乃至二十日頃になるであらう今春蠶況に關し蠶業取締平支所の話—天候も順調なので例年發蠶家が惱されてゐる病虫害もつかず極めて成績がよい、無謀な掃立てを警戒した關係から殆ど桑葉の不足もなく從つて今の處では桑葉の賣買等を行はれてゐない

出廻りは 二百貫程度

四倉繭市場は別項の如く愈よ明十二日蓋あけされるので早くも準備其他で活氣を呈してゐるが第一日の出廻りは未だ上簇盛りの關係からせいぜい二百貫程度であらう、又御祝儀相場は五圓五、六十錢位に上るではないかと云はれてゐる

。。。。。

磐中生野外演習

磐中二年生二百五十名は十一日赤井村南部方面で野外演習を行つた

前借倒し娼妓捕る

年下の鮮人と駈落ち

内郷村綴生れ東京八王寺市遊廓吉濱樓事若原タケ方娼妓湯本ノブ(三〇)は去る三日夜前借六百圓を踏倒し情夫の鮮人金榮吉(二四)と駈落ち內郷村の母親セウ方に潜伏中を平署に發見された

平第二校 口腔優良兒表彰

平第二校では左記口腔優良兒を表彰した

一年—飛田朝子 後藤時子 二年—吉田キクエ 小谷野キミ子 菱沼ヨシ子 三年—近藤ミサヲ 遠藤テル 五十嵐孝子 山口節子 竹内幸子 松崎千惠子 四年—植松玉代 小谷ワカ子 五年—八幡テル子 金澤キヨ 荻美知子 梅田孝子 大森久子 六年—山口順子 佐藤茂枝 五十嵐秋代 高一—木村キミ 猪狩フミ子 原富江 鈴木スサ子 飛田充子 高二—永井敏子 佐藤喜代 富岡喜代子

密漁。 好間村北好間坑夫吉川定(四三)同阿部定龍(三三)の兩名は去月十七日夜好間川で覗眼鏡で密漁した事發覺、平署に檢擧

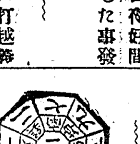
賭博。 永戸村合戸打越磐(四七)合津つぎ(六二)他一名は八日夜同村森林内で花賭博開帳中平署に檢擧

府叱謨

本紙歌壇投稿家高端巍氏は去る七日居村々議戰開票の結果最高點で當選したが推薦狀も出さず立看板も立てず、たゞ二十通の依頼狀を出したのみで最高點だと云はれてゐる、そして左のやうな述懷を寄せてきた

濟く强く戰ひかちぬ兜の緒いよよ締むべし、夏は來むかふ

こんな當選者も世の中に一人ぐらゐあつてもよい



諸判定鑑 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 經營發動なつゝしみ熱心努力すれば家門榮ゆ▲二黑 萬の事手堅く進めば過ちなし遠方の取引凶▲三碧 希望計畫ありとも後日にゆづり常業を守べし▲四綠 目上との衝突をさけ萬事自力にて進むが吉▲五黃 無理の行動は失敗多ししん重に勤めば功有り▲六白 色々と氣をもむ事の多き日何事にも焦るな▲七赤 一害努を脫け出しても未だ安心ならざる日▲八白 離合集散常なし平和圓滿に衆人と交るが吉▲九紫 忍信多大にして家道榮達の大吉日たるべし

新六月十二日 土曜 舊五月四日 庚午 友引 建 胃宿

十二日 (小名濱測候所發表) 滿潮 前五、一五 後七、四五 干潮 前〇、四〇

廣告

高久病院 院長 高久忠 電話五一三番

互融會事業近況

事業報告昭和十二年五月中

融通口數 一五口
融通金額 三、八六六、四〇
滿期拂戻金額 三、二四〇、〇〇
滿期拂戻口數 七口

概況昭和十二年五月末日

會員數 七、三七九口
會員世帶數 四、八八二戸
積立金額 八四、九八二、一〇
融通金額 二三、三三〇、五〇
回收金額 四二、一〇〇、五〇
滿期拂戻口數 一四〇口
滿期拂戻金額 七、四五五、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救恤ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社中央代理店

石城中小商工互融會

事務所 福島縣平市揚槌小路一番地 電話五五五番

小名濱方部 小名濱町古湊
湯本方部 湯本町天王崎
菊田方部
相双支部 原町東一番町

新車のおしらせ

斷然!!! 乘心地良い!!!

ベビーフォード

入車いたしました 是非! …の程を!

豆タクの……

市内四〇錢…市外二割引

スゞキタクシー 電二一七番

開業廣告

齒科一般

平市田町(安齋醫院向)

齋藤醫院

東京齒科醫學士 齋藤賢三

醫學士 吉田久雄

吉田眼科醫院

平市紺屋町 電話六八番

祝市制

謹啓 弊店儀三丁目に於て永年營業致し居り候處業務擴張のため手狹と相成候間新田町通りに移轉營業仕候に付舊に倍し御愛顧を御願申上度如斯に御座候 敬白

小カヂ式ムシカマド

乘馬具 畜犬具

小鍛冶商店

平市新田町 電話三三番